

# 誇り高き人々

## ■にかほ市の歴史人

写真は私の名刺です。オモテには池田修三氏の版画がプリントされています。8種類あります。多くの女性の方は、この名刺を見ると、「素敵ですね！」とすぐに反応してくれます。もちろん、男性の方でも反応してくれる人はいます。

ウラ面をご覧ください。「にかほ市の歴史人」とあります。皆さんいろいろと意見があるとは思いますが、私の判断で先ずは3名としました。

一番下が、オモテの版画の作者である池田修三氏です。真ん中の人物は、農工一体という理念に基づき、この地域を有数の工業地域へと発展させ、私たちの暮らしに豊かさをもたらしたTDKの創設者・斎藤憲三氏です。ゆえに斎藤憲三氏は、にかほ市にとっての精神的支柱と言えます。そして、一番上の人物は、南極探検家・白瀬蘆氏です。

## ■歴史人という言葉の意味

ここで、私がウラ面のタイトルを「にかほ市の歴史人」とした経緯を大した話ではありませんが、少しお話ししたいと思います。どんなタイトルにするかで結構悩みました。最初は、「著名人」にしようか、「偉人」にしようか悩みました。著名人は有名人とほぼ同意です。英語にすると「セレブリティ」になります。ん～、ちょっと違うなと感じました。

では「偉人」は？です。私見ですが、偉人とは「日本で唯一の存在」でなければならないと思っています。確かに、斎藤憲三氏はにかほ市にとって間違いなく偉人です。が、日本全体から見たら著名人というカテゴリーになってしまいます。また、池田修三氏についても、芸術家である彼の作品こそが主体であって、彼の人となり論評されるものではありません。



◀オモテ



◀ウラ

せん。そう考えたとき、この二人を偉人としてしまうのには多少の仰々しさが残りました。そこで、いちばん違和感がない表現として「歴史人」という言葉を選びました。

## ■にかほ市の偉人

私は白瀬蘆を「偉人」と捉えています。それは、彼が日本人初の南極探検家であり、まさに日本にとってのオンリーワンだからです。このことは、現在の日本の南極観測船名が「しらせ」であることからうかがい知ることができます。

当時、南極点踏破は人類の悲願でもあり、アムンセン隊とスコット隊と白瀬隊が同時期に南極点を目指していました。結果として、白瀬隊の南極点踏破は叶いませんでしたが、誰ひとり命を落とすことなく帰国したことは大なる成功だったと思います。白瀬蘆は、にかほ市にとって世界に誇れる郷土の偉人なのです。

市では、白瀬南極探検隊記念館を中心に、白瀬蘆とその探検についての調査研究を行っています。国内的には未開の分野ですが、徐々にいろいろな資料が発見されてきています。白瀬蘆の功績はにかほ市の財産です。このことを広く知らしめることで、市内外の多くの方がにかほ市に関心を抱ききっかけになると考えています。



にかほ市長 市川雄次

